

I 常任理事の任務

1. 規約

第7条6項 常任理事 6名 全国各地域よりその地域部会において1名選出し、部長これを委嘱する。

第9条6項 常任理事は常任理事会を組織し、この部会の重要事項を企画立案すると共に、その執行にあたる。

2. 役員選出規程（案）

第3条（オ）常任理事は、次に定めた地域の加盟校顧問から選出し、専門部の諸事業の企画・立案・執行にあたり、意欲的に寄与できる者とし、いずれかの専門委員会に属する。

3. 任務

（1）常任理事は、専門部会の重要事項・諸事業の企画・立案・執行にあたる。

（2）常任理事は、いずれかの専門委員会に属し、その企画・立案・執行にあたる。

注：規約第15条1項 この部会の業務遂行上、特に専門的処理を必要とする場合に専門委員会を設けることが出来る。

2項 各専門委員会は、理事長の諮問事項に対して速やかに答申を作成する。

（3）常任理事は、常任理事会に出席し、理事会に提案する事項および常任理事会に付託された事項に関し審議し決定する。また、常任理事は、理事会の決議を執行すると共に、緊急事項で理事会を開くことの出来ない時は、理事会を代行する。

II ツール・ド・とうほく

1. 「第15回三笠宮杯ツール・ド・とうほく（2007年度）」

5年スパンで開催してきた最後の年にあたる。事務局の河北文化事業団は、最後の大会を盛り上げる企画を考えている。

2. 河北文化事業団は、次期のスパンは考えておらず、「ツール・ド・とうほく」から撤退する。

（理由）1. 会場地である仙台市泉ビレッジにおける交通量が増加し、事故の危険性があり、地元の協力を得にくい。

2. 日本自転車振興会の補助金が減少しており、協賛企業も減った。

3. 大会のモチベーションが低下してきており、観客が減少している。海外遠征の選考対象になったが、遅きに失した。

今後は、別の大会として継続の可能性を模索している。河北文化事業団としても応援するし、自転車から撤退するわけではない。一般参加者によるレースを考えている。

3. 高体連専門部としては、事務局を引き継いでも継続する覚悟があるので、東北車連の協力を依頼した。しかし、河北文化事業団の事務局担当者から、事務局の仕事量は膨大であると指摘された。

理事長 山口秀雄